



2011年11月発行
(平成23年11月)

千葉県立匝瑳高等学校
同窓会事務局

〒289-2144 千葉県
匝瑳市八日市場イ-1630

TEL.0479-72-1541
FAX.0479-73-6146

代表：岩井和徳

平成23年度 定例総会終わる

新会長に岩井和徳さん(高19)
副会長に大川勝美さん(高20)

平成二十三年度定例総会は、六月二十六日(日)に母校西城館にて午前十時より開催。鈴木勝彦会長、鈴木尚美校長の挨拶に続き前年度決算、本年度予算案が承認され、新会長に岩井和徳さん(高19)が選出された。なお、総会席上で能勢浩氏(高4)に感謝状と長老杖が贈呈された。

また、昨年に引き続き俳優の地井武男さん(高13)が出席され、人気番組「ちい散歩」の撮影時の色々な楽しいお話があり、大変有意義な、充実した総会であった。総会終了後、越川頼知氏(高19)により、「匝瑳生は地球人」との演題のもと、三井物産社員として海外での勤務における様々なエピソードについてのお話があり、出席者一同大変興味深く拝聴した。

全国高校総合文化祭に

千葉県代表として作品出展

(関連記事P14)



油彩作品「きらきら」
三年 木内友加里さん



共同作品を囲んで 一、二年生部員
立体作品「Little Artists」



地井武男さん(高13)と鈴木校長



講演する越川頼知さん(高19)

ごあいさつ

会長 岩井和徳(高19回)



このたび、平成23年度母校
 匠瑛高等学校同窓会の会長と
 いう大役を仰せつかりました
 高校第19回卒業の岩井和徳と
 申します。

はじめに、去る3月11日発
 生の東日本大震災により、被
 災された母校関係者の皆様方
 に対しまして、衷心よりお見
 舞い申し上げます。震災発生
 以来百日余りが経過いたしま
 すが、余震への不安、福島原
 発からの放射能汚染、こうし
 た中での復旧、復興にご尽力
 されている皆様に深甚なる敬
 意を表するとともに、一日も
 早く普段の生活に戻られるこ
 とをご祈念申し上げます。

さて、本年度同窓会総会に
 おいて、鈴木勝彦前会長より
 会長職を引き継いだわけでご
 ざいですが、もとより浅学非
 才の身であります。同窓生の
 皆さまからのご支援、ご協力
 を賜りまして一年間の任期を
 全うしたいと思ふ所存でござ
 いますので、よろしくお願い
 申し上げます。

同窓会活動の主な事業は、
 会員相互の親睦および母校発
 展のための支援活動でありま
 す。会員相互の親睦は、各回
 卒業年次の幹事さんが中心と
 なり年次同窓会が開催されて
 いると思ひますが、大いに年
 次同窓会を開催していただき
 まして更なる旧交を深めてい
 ただきたいと思ひます。
 また、各地区同窓会支部に
 よる親睦、支援活動がありま
 す。この各支部における構成
 は卒業年次に限らず先輩、後

輩が一堂に会し親睦を深める
 とともに母校への支援活動を
 行っています。特に東京支部
 (母校環境整備)、飯岡支部(母
 校文化祭【匠瑛祭】のバザー
 支援)、匠瑛会匠瑛支部(母
 校清掃)の母校への支援活動
 には頭が下がります。さらに、
 各支部総会が毎年開催され私
 もこれにお招きを受け非常に
 光栄に存じ上げます。

この他にも在学中のクラブ
 活動を中心とした方々、卒業
 後の同業種の皆さんが任意で
 親睦会を開催しております。
 また、同窓会ゴルフ大会(各
 支部開催を含む)は支部、卒
 業年次の垣根を取り払い大い
 に親睦を深める場になってお
 ります。

このように母校同窓会は諸
 活動が活発に行われ、他校同
 窓生には羨望の眼で見られる
 ところもありますが、そんな
 に堅苦しいものではありません
 ん。近年卒業年次が下るに従
 い構成員が減少傾向ですが、
 お誘いを受けた時はどうか気

軽に同窓会活動への参加をお
 願ひいたします。お待ちしております。

本年の同窓会本部における
 主な事業でございますが、平
 成26年度と間近かに迫る母校
 創立90周年記念事業の準備を
 進めたいと思ひます。これは
 10年を一つの区切りとして先
 輩諸氏が営々と続けてきた一
 大事業であります。成功に向
 けて役員一同努力いたしてい
 く所存ですので、ご支援、ご
 協力のほどよろしくお願い申
 上げます。

次に、懸案であります、財
 政問題、広報活動等に引き続
 き取り組んでまいります。ご
 存知のように、同窓会の諸活
 動は、同窓生による会費とい
 う浄財で運営されています。
 特に近年は景気後退による関
 係も大きいと思ひますが会費
 納入者が減少傾向にありま
 す。

先の東日本大震災の折に
 は、母校在学生在が被災生徒
 (新人生を含む)に対しての

募金活動を行うとのことで
 あったので、鈴木前会長の
 発案で同窓会としても被災
 生徒及び近隣で特に被害が
 大きく同窓生も多い旭市に
 対して義援金を贈らせてい
 ただきました。同窓生の皆
 さんはそれぞれの立場で被
 災地に義援金あるいはボラ
 ンティアと応援されたと思
 いますが、同窓会といたし
 ましたもこのように適宜に
 応援をできたのは、ひとえ
 に同窓生各位のご理解、ご
 協力の賜物と感謝を申し上げ
 ます。是非とも会費の納
 入はお願いしたいと思いま
 す。このような諸活動を通
 じ、同窓会の発展と母校の
 支援に取り組んで参る所存
 でございます。

最後になりますが、同窓
 生皆様方の益々のご健勝を
 ご祈念申し上げます。ととも
 に、更なる母校愛をお願い
 いたしまして挨拶といたし
 ます。

(平成23年6月吉日)

平成23年度一般会計予算案

自平成23年4月1日
至平成24年3月31日

1. 収入の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算, 増減, 備考. Rows include 前期繰越金, 会費, 入会金, 寄付金, 雑収入, 特別会計より, and 計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算, 増減, 備考. Rows include 会議費, 事務費, 旅費, 慶弔費, 振込手数料, 会報発行費, 補助費, 学校支援費, HP管理費, 予備費, 特別会計へ, and 計.

財産目録 平成23年3月31日現在

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 現金, ゆうちょ銀行 当座預金, ゆうちょ銀行 通常貯金, 一般会計合計, 特別会計, and 総資産.

備考

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 前期総資産, 当期総資産, and 差引差額.

平成22年度一般会計決算書

自平成22年4月1日
至平成23年3月31日

1. 収入の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 前期繰越金, 会費, 入会金, 寄付金, 雑収入, 特別会計より, and 計.

2. 支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 会議費, 事務費, 旅費, 慶弔費, 振込手数料, 会報発行費, 補助費, 学校支援費, HP管理費, 予備費, 特別会計へ, and 計.

Summary table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 収入の部合計, 支出の部合計, and 差引残高.

名簿発行の度毎に、本校同窓会とは無関係の業者が、職業別名簿などと称し案内が行くことがあります。次回の同窓会会員名簿は、平成二十六年一月頃の予定です。「千葉県立匝瑳高等学校同窓会」発行で、代金はほぼ四千円前後の予定です。不明な点がありましたら、同窓会事務局までお問合せ下さい。(事務局)

匠高生は地球人

2011年6月26日
同窓会講演の録音から
越川頼知(高校19回)



ばのどかな就職貴族でした。矢張り高校生くらいから社会事情を知っていることは進路や職業選択には極めて重要だと思います。私から伝えることでお役に立てればと考えます。

只今ご紹介いただきました越川です。19回卒ですので1967年の卒業から44年振りの母校かも知れませんが、会社とは勝手が違う中で話しますので割り引いて聞いてください。双方向の遣り取りを期待しますので質問等あれば是非お願いします。

三井物産への入社は1972年です。大学は封鎖したまま学生証と引き換えに卒業証書を手に入れました。70年安保世代です。就職について思い出せば商社、金融、メーカーという分類くらいの知識で就活し3年生の後期試験前には内定していました。目標の会社を徹底的に調べた上で臨んでくる今の学生と比べれ

レジュメは「匠高生は地球人」と大仰な標題を付けましたがそれにふさわしいのか私の経歴から説明します。元々歴史や地理が好きだったところへ60年代にはアフリカで聞いたこともない国が次から次へと独立するニュースを読んだり、1964年の東京オリンピックを観たりして海外への関心が掻き立てられました。商社への志望動機は「商社へ入れば海外へ行ける」という単純なものでした。

外へ行く機会はないし国内支店の転勤しかないと思えました。ひどく心配になり一念発起して海外留学のための社内試験を受けました。二度目のチャレンジで業務試験、論文試験、幹部面接の三段階を経て合格しました。

留学先はイランのテヘラン大学に決まりました。振り返ればこれが中近東ビジネスに関与する契機になり中近東をくまなく回ることになりました。イラン革命、イランイラク戦争、イラクのクウェート侵攻、湾岸戦争に直接巻き込まれるという体験もしました。

アその後ブルガリアへ異動しました。日本へ戻ったのは2008年末です。会社生活の中で駐在・出張の期間を通算すると三分の二は海外にいた様な気がします。

担当したビジネスはインフラ輸出ですがいわゆるプロジェクトです。最近話題の電力・鉄道・水のプロジェクトもさることながら目にする殆ど全ての建造物、施設を手掛けたことがあると言えます。しかも米国、カナダ、南北朝鮮を除く全世界が担当地域でした。

プロジェクトは商品を手掛けた形に付き話してみましよう。三井物産の留学制度の目的は語学習得と現地の有力人脈構築です。派遣された当時(1976年)三井系5社が石油化学プラントをペルシャ湾岸で建設中でした。このプロジェクトは当初1000万2000億円規模だったのですがイランイラク戦争で爆撃を受けたりしたため7000万8000億円で建設費が膨らみました。最後は通産省(現経産省)の保険求償を行なうことになったある意味で

完しています。

プロジェクトを手掛けたことで現場を中心に様々な民族国籍の人と付き合いました。事務所にいて現地職員に指示を出しているだけの商社マンとは違ってきます。しかも王様、大統領、首相、大臣などの各国の高位高官と会話、交渉、食事などで接する機会もかなり持ちました。

以上総括すると手掛けた仕事、担当地域、接触した人間の幅広さから「地球人」という標題に違わぬと考えます。

さて経歴の一部を深堀りする形で新聞によく登場するイランに付き話してみましよう。三井物産の留学制度の目的は語学習得と現地の有力人脈構築です。派遣された当時(1976年)三井系5社が石油化学プラントをペルシャ湾岸で建設中でした。このプロジェクトは当初1000万2000億円規模だったのですがイランイラク戦争で爆撃を受けたりしたため7000万8000億円で建設費が膨らみました。最後は通産省(現経産省)の保険求償を行なうことになったある意味で

は不幸なプロジェクトです。

その頃三井物産に限らず三菱商事、伊藤忠、丸紅などの商社、大和銀行、佐藤工業、新日鉄などもイランへ留学生を出していたのは、イラン市場への期待が高かった証拠でしょう。日本だけでなく南北朝鮮、中国も含む東アジア更に様々な国からも学生が来ていました。ペルシャ語をペルシャ文学を通して学び期末には口頭試問も受けて真面目に学業をこなしました。

ペルシャ語は文字が同じということであラビア語と混同されますが言語の系統は別です。ペルシャ語はインド・ヨーロッパ語族でありアラビア語はセム・ハム語族です。私の体験ではアラビア語の習得の方がずっと難しいと思います。イラン時代にも中近東諸国をあちこち旅行しましたが、今と違いピザが簡単に取得できず旅行計画が立て難かったことを覚えています。ピザ発給のために身元、所持金、宿泊先、旅先での保証人などチェックが厳しかったのです。当時の中近東では一部の国を除き観光など想定もしていな

かったと思います。

旅行中に生命の危機を感じたことはありませんでしたが、病気になることはあります。携帯電話のなかった時代なので連絡がつかず行方不明だと大騒ぎになったことも何度かあります。それでもけしからんと怒られたことはなかったので会社も鷹揚だったのでしょう。古き良き時代でした。最近のイラン関係のニュースは厳しいものが多いので中々観光の対象になりませんが、歴史的な場所をあちこちにあります。例えばベルセポリスはシリアのパルミラ、ヨルダンのペトラと共に中近東の史跡3Pの一つです。アレキサンダー大王が万人の兵隊と結婚式を上げた場所あるいは天皇陛下が皇太子時代にイラン建国2600年祭に訪問された場所でもあります。因みにイラン人はとても親日的で日本人はどこへ行っても暖かく受け入れてもらえます。

テヘラン大学を一年で終えた後、三井物産と古河電工が手掛けた送電線プロジェクトに従事しました。カスピ海沿

岸からテヘラン北部の山脈を越えてテヘラン郊外までの300キロに亘り送電線を敷く工事でした。

カスピ海といえば沿岸には日本と同じ水田があります。田植えも日本と同じです。但しコメは長粒米です。コメを使ったイラン料理を毎日食べていましたが少しも飽きが来なかつたので日本人の口に合うと思います。

人生最大にして人生観を変えた体験は1978〜1979年のイラン革命です。人が殺されてゆくのを目の当たりにしていると憤り以上に無力感に陥り何故なんだという問いにさいなまされました。未だに回答はありません。

まとまりなく話しているうちに残り時間5分になってしまいました。結論めいた話をしましょう。「外国で何を学んだのか？」という問いに対しては「外国にいれば自分は外人である。自分を見失わぬためには自分自身をしつかり持たねばならない。」ということが気付き実践してきたことが回答です。 以上

平成23年度 役員一覧

参 与	顧問	監事	会報担当	会計	事務局長	体育部長	文化部長	総務部長	副会長	会長
○鈴木勝彦(高18)	○鈴木尚美(校長)	○伊知地正一(高20)	○馬淵英夫(高10)	○木内俊夫(高33)	○岩瀬道治(高24)	○椎名勤(高19)	○米本雅男(高10)	○佐瀬喜以知(高19)	○大川勝美(高20・次期会長)	○岩井和徳(高19)
○加瀬良子(事務長)	○横塚正充(全日制教頭)	○渡邊順一(高21)	○加瀬健司(全日制教頭高30)	○工藤博孝(高11・四街道)	○加瀬操(高17・海上)	○加瀬英夫(高11・光)	○林功(高19・野菜)	○林功(高19・飯岡)	○石井幸成(高19・匠陵会)	○堀越正夫(高13・旭匠会)
	○行木利雄(定時制教頭高28)	○日下部章(高16・横匠会)	○土岐四郎(高11・京葉)	○宇井正和(高19・多古)	○宮崎晴可(高15・東京)	○佐藤幸司(高18・干潟)	○石毛理(高20・銚匠会)	○石毛理(高20・銚匠会)	○石井幸成(高19・匠陵会)	○堀越正夫(高13・旭匠会)

○印新任、他は留任。

支部総会報告

【四街道支部】

七月九日(土) 十時三十分から四街道市文化センターにおいて、四街道支部同窓会第13回総会が開催された。

母校本部から岩井和徳会長(高19回)、母校から鈴木尚美校長が出席され、支部会員二十九名参加のもとに同窓会及び母校の近況について報告があった。

総会では、石毛忠議長のもとに、支部の活動報告並びに新年度事業計画の報告等が承認され、新会長には工藤博孝氏(高11回)が推挙承認された。

総会終了後、「21世紀の課題」と題して講演会を開催。現在、東京都中央区新富町に所在する「フジミエレクトロ株式会社代表取締役伊藤剛社長(高7回)」に、講演していただいた。

東日本大震災に伴う原発事故対応、リーダーは次から次へと代わり、行動が伴わな

い。だからと言って私たちの井戸端会議では市や県・国に届くはずもなく、ましてや政局には簡単に届かない。東日本工場が津波被害で壊滅状態、これで判明したことは、乾電池を例に乾電池の在庫はあるのに販売出来ない。なぜか、ラベル製作会社がやられてしまったからである。ラベルが貼られないと完成品とみなされず販売出来ないからである。等を交えて話され、経済はどこが欠けても回らない本当の姿が今暴露された。脚光を浴びず地道にやっている企業が、世界を麻痺させる状況も作った。

次に消費税5%アップなどが言われているが、物価の便乗アップが発生するので、これにとらわれず熟慮し、増税が景気回復になることは考えにくいことなど、解り易く目に浮かぶ講演でした。

続いて永井義行氏(高6回)の絶妙な司会のもとに、懇親会が行われ、それぞれ出席者

全員の新況報告、もちろん鈴木尚美校長もご主人との出会いから現在に至るまでの話も弾み、最後に石田實氏(高2回)は、歩く走ることから、今でも短距離走に情熱を燃やし、腹の底から大きな声が出すことが出来るのはこのお陰と、詩吟と民謡を披露し、まさに健康であることの証明をし、会も和やかなうちに終了した。

【京葉支部】

去る七月二十三日(土)に匝瑳中学・高校の京葉支部総会を、千葉市の京成ホテルで開催しました。当日は夏真っ盛りでしたが、京葉地区に在住、勤務のOB、OG七十八名が参集しました。この会は例年5月下旬に開催していましたが、東日本大震災の関係で七月に繰り延べしたものです。当日は来賓として、母校の鈴木尚美校長、岩井和徳現同窓会長、鈴木勝彦前同窓会長にも参加していただきました。

総会では22年度の事業報告、同収支報告、23年度の事業計画が承認されました。ま

た、役員に若干の変更があり、それも承認されました。

総会後、特別企画として高校18回卒の石橋忠良さんに講演をお願いしました。石橋さんは現在JR東日本の執行役員として活躍されており、昨年母校匝瑳高校で開催された同窓会でも関西大震災時の鉄道復興について講演されましたが、今回も東日本大震災について、多くの写真を使って講演していただきました。改めて地震と津波の恐ろしさを認識するとともに、我々の故里である旭、飯岡を含め、震災地の一日も早い復旧・復興を祈念しました。

また、アトラクションとして匝瑳高校53回卒の歌手・青山裕太君(本名高橋裕太・多古町出身)の歌の披露がありました。若いのに演歌を披露していただき、年配の出席者が多いこの会でやんやの喝采を受けました。

最後に匝瑳中学の校歌と匝瑳高校の校歌を全員で合唱し、来年もまた、全員の再会を約して散会しました。

九月二十六日(月)には富里の名門「久能カントリーク

ラブ」で、第8回ゴルフコンペを開催しました。百七人が参加し、腕を競い、石田健二氏(高21回卒)がクロス81、ネット71・4で優勝を飾りました。また、レディスの部は秋田美恵子氏(高16回卒)が同92・72・8で優勝しました。特筆すべきは江畑魁氏(79歳・高校2回卒)がドラコンを二つ取ったことです。腕に覚えのある猛者も脱帽でした。

十一月十三日(日)には小旅行会を計画し、房総丘陵を眺めるに最適地といわれている九十九谷と鹿野山を散策することとしています。

【今年度の役員】(※11新)

会長 土岐四郎(高11)、副会長 鈴木貞子(11)、石橋進(12)、青柳泰亘(13)、疋田躬矩(14)、熱田熙人(15)、椎名三郎(16※)

監事 鈴木正義(7)、渡邊五久男(14※)

幹事長 石橋忠良(18※)、当番監事 布施貴良(同※)、

太田安易(同※)

事務局長 石井稔(同※) 会 計 菅谷信子(同※)

【飯岡支部】

五月二十一日(土)午後四時より、玉之浦食堂にて開催。鶴澤恂一氏(高9)支部長留任

【匝陵会】

六月十一日(土)午後七時より、吾妻庵にて開催。石井幸成氏(高19)支部長新任

【横匠会】

六月十一日(日)午後十一時より、富士屋にて開催。日下部明氏(高16)支部長留任

【多古支部】

七月三十一日(日)午後六時より、万勢庵にて開催。宇井正和氏(高19)支部長新任

【光支部】

八月七日(日)午後一時半より、光町公民館にて開催。椎名英夫氏(高11)支部長留任

【野栄支部】

八月二十一日(土)午後六時半より、望洋荘にて開催。林功氏(高19)支部長新任

【千潟支部】

八月二十一日(土)午後六時より、嘉儀屋にて開催。佐藤幸司氏(高18)支部長留任

【旭支部】

八月二十七日(土)午後二時半より、旭楼にて開催。堀越正夫氏(高13)支部長留任

匝東会「第五回ふるさと歩こう会」

多古の古刹巡り

匝東会(会長伊藤清10回卒)の行事「ふるさと歩こう会」は平成二十二年十一月十三日、日なた暖かく日陰ひんやり感の、穏やかな小春日和に恵まれた。

八日市場駅、九時四十五分

着の下り電車。東京・千葉方面からの本隊が、地元の太田匝瑳市長らの同窓に迎えられて、ここから「多古の古刹巡り」が始まった。

歩く道順から一は常盤地区、必勝繁栄祈願の能満寺、二は部落ごとにあると言われ

るほど寺が多い中村地区、なかでも最も古く格式が高い「浄妙寺」、山門が一際立派で多古城主の墓がある「妙興寺」、日蓮宗の学問寺「中村檀林」、ゴールは栗山川のほとり国道二九六号に面して大人気の「道の駅あじさい館」、「妙光寺」というコース設定でした。

多古はブランド米で知られる農業の町、歴史は古い。史話・史実は各寺たちとともに語り継がれて、住んでいる人々の控えめな目には何も無い町かもしれません。俗化をまぬかれて取り残されたように昭和風景が佇むところが、私が生まれ十八まで育ったところ。その「ふるさと」をみなさんと一緒に歩くのは一面こそばゆいものです。

あんころ餅とふるさと

八日市場駅から能満寺の間は、貸し切りバスだった。バスの中、紙切れの小片がまわってきた。「うさぎ追いかの山、小鮒釣りしかの川…」の歌詞。配ったひと、歌をリードしたひととは高校15回卒山崎忠義さん、元校長でした。皆

が歌う声に元気がない。車窓からの風景が無口にさせるのか、感慨一人の間隙の妙をついて配られてきたのが、何とトレイに三個ずつのあんころ餅でした。まだ明けぬ早朝から準備万端された由。あんころ餅と「忘れがたきふるさと」「如何にいます父母」ですから。これには参った。山崎さんの演出、ご苦労、お気遣いに感謝あるのみです。

日本寺「中村檀林」

高校10回卒、私と同じクラスで早世した友人がいる。彼の墓所は東京日暮里、寶珠山延命寺にある。私の手元にある「延命院の歴史」という冊子に、「開山の日長聖人は、諸国巡錫のち中村檀林(今の立正大学)に招ぜられて多くの修行僧の教導にあたり、のちにその功によって聖人号を贈られた高僧です」というくだりがあります。その中村檀林が今回の寺巡りの中心になりました。

日蓮宗の僧侶養成学問所として一五九九年に開かれ一八七二年(明治五年)に廢檀されるまで二百七十年



余にわたって、隆盛時には一〇〇〇人近い学僧が全国から集まったそうです。学僧たちは二手に分かれて、教義だけでなく社会問題にまで広いテーマで論争形式の討論が課せられ、勝者は名札を掲げて称えられたというまるで今の高校生たちの「ディベート甲子園」のようです。多くの村(次ページへ)



(高6・写真右)が韓国政府
この度飯島英胤名誉会長

飯島東京支部名誉会長が大韓民国『修交勲章光化章』(一等級)を授章

人が見学に押し寄せたといひますから、地域に開かれた公開講座のようでもあります。境内には往時のデイベートを想像した大きな絵が掲示されています。

なお成田空港の「三里塚」は中村植林を起点とする江戸までの道標の一つ、「二里塚」は芝山町白枳にあります。

地元、多古支部同窓会の渡邊前支部長には事前の調査、

打ち合わせなど諸事万端お世話になりました。また、日本寺(中村植林)の執事宮崎公見さんには、普段は上がる事も、見る事もできない奥の奥まで通していただき感謝です。

平山 豪(高10)

幹事追記

本文に記載された方々の他、鈴木同窓会長、大塚総務部長、鶴沢総務副部長、多古支部鈴木支部長、飯田さん、匝東会

メンバーでは森茂代さん(高7)、平山忠男さん(高10)の皆さんから茶菓、飲料の差し入れを頂きました。

又、青松秀幸さん(高14)(日本広告写真家協会副会長)には参加者全員分の記念写真を寄贈頂きました。有難う御座りました。

多古町役場には事前情報提供、パンフレット等資料送付等でご協力頂き深謝申し上げます。

より『修交勲章光化章』を授章しました。

授章式は五月三十一日大韓民国大使館において開催され、権哲賢(クオン・チョルヒョン)駐日本国大韓民国全権大使(写真左)から勲章が授与されました。

同章は友邦との親善などで大きく貢献した人に、韓国政府から外国人に贈られる最高位(一等級)の勲章です。

飯島名誉会長は東レ(株)役員として対韓投資の促進、事業拡大を図る一方、平成十八年(二十二年迄、社団法

人日韓経済協会(一九六〇年創設、経団連と日商を中心に民間経済の総意を代表する唯一の公益法人)会長職を勤め、現在は名誉会長の任にあります。

東レ役員および日韓経済協会会長として尽力された日韓間の投資、貿易、経済交流の促進に関する功績が高く評価されての授章です。

誠に御出度いことであり、同窓の皆様にご報告申し上げますと共に心からお祝い申し上げます次第です。

東京支部 林 泰弘(高11)



鳥飼会長の挨拶、会務・会計報告の後、懇親会で全員近況報告、和やかなひとときを過ぎました。来年は五十回で終了の予定、しかし後三年で米寿できればそれまで継続したいと話し合い、石毛久義君の音頭で校歌を斉唱し、鳥飼会長、江波戸会計のこれまでの労に感謝して解散。

平山昭二(中16)

林 正夫	中川 昭
遠藤 秀雄	鳥飼 顕照
石毛 久義	平山 昭二
間淵 順二	鈴木 精
前林 一夫	実川堅司郎
越川 正寿	江波戸三好

同期・同好の集い

**中16・充緑会
第49回総会**

平成二十三年五月八日(日)匝瑳市の「百木屋」にて充緑会同期生十二名出席、記念写真撮影の後、この一年間に亡くなられた越川協君、及川昭二君、大谷信雄君、戸口義和君、石井大三君、高登喜男君、六名のご冥福、と三月十一日の東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福を願ひ黙祷を捧げました。

次に実川堅司郎君のご子息隆君が千葉県議会議員に当選、江波戸三好君が生涯スポーツ功労者として文部科学大臣賞表彰を受けられました、おめでとうございませう。

匝瑳21・1同期会

平成二十三年五月二十二日(日)午前七時六分、旭市で震度四の地震があり、総武本線、成田線の一部区間の電車が止まった。同期会の日だ。ヤバイ！幸い十時過ぎ普通電車は復活し、午前三時半の開会には殆どが間に合った。

震災から七十日余り経つても未だ余震に振り回される。



会場はホテルサンモールの六階宴会場、椅子席の円卓。

昨年より六名増の三十一名が出席した。特に七年ぶりに青森から三五清司さんが地震の影響で一時間近く遅れて駆けつけてくれた。九年ぶりの大川英雄さん、六年ぶりの若松福太郎さん、千本松和徳さんなど久しぶりの顔が四人も揃って大変嬉しかった。

反面、常連五人が不参加(内四人が体調不良)となり、更に昨年の五月以来、越川勝夫さん、千葉宏胤さん、勝山幸雄さん、金沢浩さん、そして元同期の旧満州国からの留学生の朱燁麟さん(一年三組)、戦時縁故疎開で卒業前に帰京した川上嘉夫さんがそれぞれ鬼籍に入られた。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

去る三月十一日の東日本大震災の被災地旭市が当番で、津波で壊滅的被害を被った飯岡地区の石橋清さん、若松福太郎さん、神原健さん等も幹事を務めてくれた。幸い同期生に直接の被害はなかったものの実家や親戚、知人友人には亡くなった方や、家屋や家

財が流出してしまったなど、多くの被災者があり、情報交換や話題がそちらに偏るものも仕方がないことであった。

八十歳を越えて遭遇した未曾有の天災は、青春時代の戦争災害と合わせて得難い経験であり、いま命あることの有難さを身に沁みて感じざるを得ない。

今年の同期会は、例年と違った雰囲気と話題の中で時間が流れた。何よりも「生きているって素晴らしい！」
生存者が百九名となつてしまった。同期会に集まれる人はその三分の一程しか居ないが、自己管理に努めて気力、体力を維持して出来る限り続けたいものである。

午後六時、相変わらずの荒れ模様だが雨は小降りになった。次期会場の匝瑳地区から片岡工さんが「次回は平成二十四年五月二十七日(日)に八日市場で開催する」事を予告し、飯岡地区の神原健さんが中締めをして解散した。
今年の同期会冊子に「見えないゴールは無視して、もう少し突っ走ろう！」と記したが、来年は参加者が右肩上が

りになることを期待しながら今回の報告とする。

大関 正(高1)

高9同期会

平成二十三年四月二十四日(日)に旭市鎌数の「黄鶴」に於いて、高9同期会を開催しました。

今回は、三月十一日に発生した東日本大震災の影響もあつて、同期会の開催を憂慮しましたが、三十七名(うち女性十一名)が出席して、計画通り開催することができました。

当日は、最初に出席者全員で記念撮影を行いました。
小川又次君の司会で、開会に先立ち、今回の震災による津波で亡くなられた松本勲男君をはじめ、故人となられた五十三名の同期生の方々のご冥福をお祈りして黙祷を捧げました。

次に、鶴折恂一君の開会の言葉が続いて、幹事代表の挨拶を行い、江波戸寛君の乾杯の音頭で懇親会が始まり、今年三月に発生した大震災のこ

自の近況などを語り合い、カラオケなどに興じて楽しい一時を過ごして、最後に「青い山脈」と「母校の新旧校歌」を全員で合唱して閉会となりました。
次回の再会を約して散会しました。
内藤 勇(高9)

高10回卒C組旅行会

十月三日から、二泊三日の北海道旅行が行われた。幹事は大三川君、佐々木敏江さんと勝股が担当し、参加者は男性十名、女性六名を数えた。

一日目は、新千歳空港から支笏湖、大倉山シャングツェ、北海道大学を巡る行程で、宿泊地は「すすきの」であった。支笏湖では、気温五度という強風にさらされ、湖面を渡って迫り来る時雨に追われながらバスに逃げ込むということがあった。過酷を強いた案内をしたかと思つたが、北海道に来たという実感は得られたかとみている。夜の会食の席では故藤本圭介君の二十三回忌の年に当たるとの報告があり、同君を追憶する一時があった。又大木優君が春の叙

(次ページへ)

勲で「瑞寶小綬章」を授章したことが報告され、それを寿ぐ場面があった。鏑木靖夫君、大木啓司君と併せて、これまでに我がクラスでは三名が受章者となったことになる。

二日目は、旭山動物園を見学し、美瑛、富良野を遊覧する旅程で、宿泊は定山溪温泉であった。高齢者が動物園見物することをいぶかしく思われた参加者もあったかと推察するが、動物の行動展示を工夫して成功した同園は、あざらしのしなやかな遊泳など興味をそそるものがあった。次いで訪れた美瑛の丘は、伸びやかに幾重にもうねり、その先の雲間に大雪・十勝岳連峰が雪をまとっている景観を望み時を過ぎた。

三日目は、小樽の散策と空港での自由行動に当てられた旅行の楽しみの一つのショッピングに集中する様は、家族との絆を象徴する姿とも映り、孫の為か留守を預かった者へのお土産でもあろうか、大きな荷物を厭わずに手に提げられる様子が見受けられた。

勝股 脩 (高10)

匠高無線部OB会

九月二十八日(水) 正午、旭のホテル・サンモールを会場に六回目的匠高無線部OB会を開催する。

今年三月以来大震災と津波、原発事故と放射能、豪雨による洪水と土砂崩れ等天災と人災のWパンチの半年だった。無事こそ最大の幸福！三年連続の開催で、三十八名中十七名のエントリーが

あったが、前日の午後になって体調を崩し、キャンセルが一名できて参加は十六名となる。

昨年メンバーが七名減って新たに五名が増えた。特に今回渋谷弘美さん(8)が初めて参加されたのは嬉しい限りであった。また、此の一年間には物故者がなかった事も、古希から傘寿を会員とする本会にとって喜ばしい事である。

自己紹介と近況報告をする。十年の差があるので当然大部分馴染みのない顔ぶれなのだが、階段下の部室時代の話には共感を呼ぶものが多く、年齢差は直ぐに解消した。

無線部との出合いが縁で電気関係の仕事が続けて来た(いる)人も何人かあり、いろいろと情報交換も行われた。午後二時四十分、再会を楽しみに解散する。

「今回は二度目でしたので顔見知りの方々も多く打ち解けて楽しく歓談する事が出来ました。」加瀬 進(8)

「文の前後省略) 幹事にとって、電話や手紙も含めて最も嬉しい反応であり、又やる気になる。最早残された時間がない。次回にはより多くの参加を期待したい。ご自愛を...」

文責・大関 正(高1)



【後列】

- 米本 雅男 (高10)
- 大木 喜好 (高4)
- 加瀬 進 (高8)
- 林 磐 (高7)
- 渋谷 弘美 (高8)

【中列】

- 平山 宗雄 (高7)
- 伊橋 幸雄 (高5)
- 鈴木 茂陽 (高3)
- 江波戸弘己 (高6)
- 吉田 公生 (高4)
- 越川 孝雄 (高11)

【前列】

- 大関 正己 (高2)
- 大関 正 (高1)
- 片岡 工 (中21)
- 林 秀夫 (中21)
- 松澤 稔 (高2)

お悔やみ申し上げます

ご遺族もしくは関係者から事務局にご連絡いただいた方です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

《会員訃報》

- 東金市田間二二七一 宇井 貞文さん(中10) 平成22年11月16日逝去
- 多古町方田八七 久保田 宏さん(中12) 平成23年1月逝去
- 若葉区大宮台四二一四 鈴木 成之さん(中14) 平成23年5月10日逝去
- 匠瑳市椿九七一 一 匠瑳市平木五一四 安田正治郎さん(中6) 平成23年2月6日逝去
- 増田 義明さん(中5) 平成23年1月2日逝去
- 江波戸罔男さん(中4) 平成23年1月14日逝去
- 椎名内三一九九 平成23年1月14日逝去

- 木内 喬さん(中14) 平成23年2月5日逝去
- 香取市鳩山五〇七 東京都北区西ヶ原三一
- 中西甲子雄さん(中14) 四八一一
- 加瀬 明さん(高4) 平成23年2月19日逝去
- 旭市口一六〇四一六 所沢市こぶし町二一一二
- 熱田 武夫さん(中15) 小林 健樹さん(高4)
- 平成22年1月9日逝去 平成23年4月14日逝去
- 町田市木曾西五二七二二七 佐倉市井野一三九一六
- 平山 慎一さん(中16) 神沢 明さん(高4)
- 平成23年5月17日逝去 平成23年7月19日逝去
- 香取市佐原イ一三四三二一八 東金市宿一五八五二二
- 向後 廣さん(中16) 林 義男さん(高6)
- 平成23年7月8日逝去 平成4年3月23日逝去
- 木更津市八幡町六一〇一八 酒々井町東酒々井六一六一
- 岩崎 治さん(中18) 三一一〇一
- 平成20年6月9日逝去 石橋 弘さん(高6)
- 船橋市本町五一七一一 平成22年4月29日逝去
- 勝山 幸雄さん(中21) 船橋市三咲二一一一八
- 平成22年9月28日逝去 林 ふちこさん(高8)
- 江東区亀戸六一三五一七 平成23年4月9日逝去
- 広瀬 隆さん(併中2) 酒々井町東酒々井六一六一
- 平成23年4月22日逝去 三一〇一
- 横浜市戸塚区汲沢一一二一 伊藤 重雄さん(高9)
- 一六一四〇一 平成21年9月逝去
- 太田 喜重さん(高1) 横芝光町横芝九六七一七
- 平成23年6月24日逝去 名塚 啓子さん(高9)
- 千葉市中央区千葉寺町二二 平成22年6月4日逝去
- 千葉 宏胤さん(高1) 船橋市北本町二二二六一二
- 平成22年5月6日逝去 大地 孝さん(高9)
- 柏市東中新宿四一六一一 平成21年9月逝去
- 金澤 浩さん(高1) 川口市朝日町四一一宮方

- 松本たか子さん(高9) 高宮 茂さん(高13)
- 平成23年1月2日逝去 平成22年11月27日逝去
- 板橋区南町五六一一 千葉市緑区菅田町二一一
- 六一二 二四八
- 石崎 良行さん(高10) 岸 常さん(高22)
- 平成23年6月29日逝去 平成23年4月18日逝去
- 旭市口一九五四一一 成田市栄町竜角台六一九一三

お詫びと訂正
 前回の会員計報欄に、誤りがありました。
 訂正してお詫び申し上げます。
 岩井 精一さん ↓ 岩井 清一さん

鵜之澤勲君と匝中第十七回生

私達百五十名は、昭和十五年四月六日、萬葉の桜に迎えられる、匝中中学校第十七回生となった。爾来、クラスは時に変わっても、きびしくもつらい戦時下の中学校生活を共にした仲間である。特に最後の七カ月間は、B29群の空襲下の工場動員に、生命を賭け、寝食を共に、苦勞を分かち合った兄弟であり、戦友でもあった。

昭和二十年三月二十八日、卒業式を迎えた。久し振りに見る彩り美しかりし嘗ての日本庭園も、西洋庭園も、すべてが一面の芋畑と化している。

た。萬葉からまる校舎を背景の卒業写真に写った者は百名、不在の五十名は、すでに軍服に着替えて、祖国防衛の任に着いていたのである。

昭和二十年八月、戦争は終わった。GHQの諸改革の強制により、百八十度価値観の転換を余儀なくされた私達は、必死になって、新しい生き方を模索せざるを得なかった。やがて折からの経済成長の波に乗り、それぞれの分野での尖兵となって、活躍の場は国内はもとより国外にまで及んで、将に校歌の一節「一身かかる五大洲」の実現であった。

その間「十七回生だより」なる会報が、定期的に、全員に郵送され、全国(全世界)各地に活躍する同期生の消息が、逐時、克明に伝えられるようになった。住所、勤務地の近いことがわかった者同士が連絡を取り合うなど、それぞれの励みの糧となってきた。多忙な現職のなかにありながら、会の連絡、通信、会計その他、運営の一切を、自発的に積極的に引き受けてくれたのが、鵜之澤君であった。彼の地道な献身が、私達十七回生の結束を、より固くしてくれた。年に一度の全体会を、地元級の友と共に、八日市場で開いてくれたのも彼であった。

平成三年、卒業四十五周年記念誌「此処東海の…」の編集を、笹井忠男君、那須豊君と共に、企画、作成して、全員に配布してくれた。同誌は、私達五年間の中学生生活の懐かしい思い出満載の好著で、それぞれの書棚を飾った。私達には避け得ない戦時下の一般的には暗く悲しい時代とされながら、笑いと希望に満ちた内容になっているのは、

(次ページへ)

若者だけに許された特権とでもいえるのであろうか、皆が時折縋いては、ひとり微笑みつつ、元気の源としているということである。

彼は、昨秋以来、平成二十三年三月、卒業記念の日を期して、十七回生最後の会を、八日市場で行うべく、着々と準備をされていたようであつたが、今年一月になつて、急に病を得、入退院を繰り返された末、薬石効なく、帰らぬ人となつてしまつた。最後の計画を実施することなく逝つてしまつたことは、几帳面な彼にとつては、嘸、無念極まりないことであつたろうと想像ができる。

年二回、東京で行われることとなつた。勿論地元有志の参加は大歓迎で、会のしめくくりの校歌「此処東海の…」は、いましばらくは歌い続けられようである。

彼の生前の経歴を挙げてみると、須賀中学校、八日市場第二中学校教諭を経て、白浜小学校長、八日市場中央小学校長、その間、千葉県教育庁海匝地方出張所指導主事等を歴任、退職後は、八日市場市教育委員を二期八年、うち二年は教育委員長として、地元教育界に多大の貢献をされて来た。伝えられる彼への叙勲は、教育者としての彼に最もふさわしく、私達にとつても極めて名誉なことであり、嬉しいことである。

鵜之澤君は、温厚、誠実な人格者であり、敬虔なクリスチャンであつた。その語り口は穏やかで、人の云うことによく耳を傾けてくれた。骨身を惜しむことなく、私達の為に尽力してくれた。級友の信頼最も篤く、いくら感謝しても感謝しきれない思いで一杯である。

幽明境を異にして、今は共

に語るを得ないが、彼の風貌その言動は、彼に接したことのある同僚はもとより、先輩、教え子等、すべての人々の心の中に、いつまでも行き続けることであろう。謹んで彼の冥福をお祈りし、併せて奥様はじめご遺族の皆様方のご多幸と、益々のご発展をお祈りいたします。

長房 利典(中17)

慕情無限 三首

七十年(ななとせ)の
絆を独り繋ぎ来て

しばしは憩え 蔦の葉陰に

安らけき

温谷九十九里浜(うみ)を

みつめつゝ、

健児の丘を語りてあらむ

温谷に

再びまみゆ日願いつゝ、

残りしわれら今日も集える

渡邊 寛治(中17)



孤独死を考える

人は道具を手に入れると進歩するものである。

昭和十五年の夏休み頃であつた。豊島師範学校(現芸芸大学)に進まれた林博先輩(中12卒)から母校に槍投げ練習用の竹槍と円盤投用の円盤のご寄付をして下さつた。

林さんは棒高跳の名手で関東大会入賞の経歴の持ち主で自宅は干潟駅前にあり、私の家とも三百メートルほどの近くであつた。彼がどうして槍と円盤のご寄贈になつたかは解らない。恐らく自分の体験から、当時の匣中の弱点であつた投てきの強化をしようという意図があつたものと思われる。

その後、木槍を購入するや、走り高跳の選手をしていた山崎省吾君(高3卒)が槍の練習を初め、持ち前のバネと腰のヒネリなど槍の肝要な点を生かし忽ち県大会優勝の偉業を達成してしまつた。

一方の円盤は斎藤薫君(高1卒)が独学で練習し県大会に上位入賞するまでになつた。

当時コーチをしていた私も走る方だけで、跳躍も投てきも指導者は誰もいなかったの、ひたすら黙々と投げ方を考え回転を研究し、独力で投げ技を体得

したのであるから偉大な功績と言えよう。

斎藤君は卒業後、林藤男先輩(中4卒)の導きもあつて、匝瑳郡内(今は旭市)の豊畑小学校の代用教員となり、安い月給を補うべく年間通して宿直をし自炊生活を送つた。

私も夜何度か出向いて四方山話にふけたことがある。

何年かして、栄養の片寄りなどもあつてか、当時蔓延していた肺結核となり、退職させられて自宅に戻り、今度は縫製業を始め、若い女子数名を雇い盛況の様子であつた。

何年続いたか定かではないが、やがて戸締めとなり何十年もたつた。中で何人生活しているのか、車を動かした様子もないまま過ぎていった。

たまたま今年、四月シャッターの前に花環があり通夜と告別式の日程が書いてあつた。

当日もその後もシャッターは閉まつたまま今日に及んでいゝ。葬儀の挨拶状によると、息子さんと思われる男の名前が喪主として記されていた。私はふだんの彼の生活も知らず奥さんのおられることも知らなかつたので、全くの孤独死とばかり思つていた。

今もシャッターは閉めたまま、中に人が住んでいるのかも

解らないし、人の出入りする様子も全く見られない。元気な選手時代からは考えられない事態と思っている。
元陸上競技部 顧問
品村 晃祥 (中14)

おめでとうございます

平成22年秋の叙勲(その2)

☆瑞宝小授章

大木 優さん (高10)

☆瑞宝単光章

秋葉 忠敬さん (高10)

高齢者叙勲(瑞宝双光章)

越川 芳雄さん (中12)

◎さふさ43号は、全会員には配布されなかったため、44号に43号の会費納入者一覧を転載します。

終身会費納入者

※平成二十二年九月二十三日から二十三年三月二十八日受付まで

(中十六回) 平山 鐵博

(高一回) 石井 大三 (定夜一回) 石井忠四郎

(高四回) 佐藤 英樹 (高八回) 加瀬 勝平

熱田 稔 澁谷 弘美

米田 実 増田 久蔵

(高七回) 宮負 雅光

(高九回) 金沢 えい

(高十回) 加瀬 和夫

(定昼六回) 中村 螢子

(高十一回) 高橋 幸雄

(高十三回) 木内 英司

(高十五回) 荒張 文字

(高十三回) 大木 敏夫

(高十五回) 秋原 英俊

(高十七回) 伊藤 正規

渡辺トク子

郡司 長彦

須郷 隆雄

(高十八回) 高木 俊夫

高品 哲彦

林 秀樹

(高十九回) 朝比奈 了

安藤 和男

並木 俊雄

西村 正志

(定夜十三回) 野沢 信幸

(高二十回) 石田 正

加瀬美代子

塚本 晴夫

中村 信二

林 吉久

(高二十五回) 佐久間邦彦

(高二十六回) 大木 和恵

(高二十八回) 秋葉 忠夫

(高三十二回) 室谷 圭洋

(高三十三回) 土屋 肇

(高三十三回) 飯倉 康弘

(高三十五回) 長谷川幹雄

渡邊 奨

(高四十四回) 菅谷 淳子

(高四十二回) 常世田正猪

(高四十三回) 三友(伊藤)

久美

(高四十五回) 大木 隆伸

(高四十六回) 千葉美知子

(高四十七回) 高見世光弘

(高四十七回) 石井 久子

(高五十一回) 田口 絢

(高五十五回) 鳥飼 直子

平野建太郎

宮澤 千尋

(高五十六回) 佐藤 弘美

石井 成史

金杉 幹夫

佐藤 和樹

平野 和也

國本 麗雅

(高五十七回) 椎名真利子

伊知地良洋1

越川 俊雄10

(高二十一回) 鈴木 博久10

勝股 良子5

(高二十二回) 角田 道治5

(高二十三回) 石井富士男10

伊藤 恵之4

(定夜十七回) 皆川喜美子10

(高二十五回) 及川 博1

角田 勝美5

鈴木 友孝2

桐谷 法子3

(高二十六回) 岩沢 房子10

大木 行男1

(高九回) 菅谷 良民2

(定夜三回) 杉戸 寿代10

(高十一回) 熱田 新一10

五十嵐 和5

(高十三回) 及川 光男5

朝倉 静子5

前島 栄子10

(高十六回) 佐藤 一夫5

服部 俊弘10

林 直久10

(高十七回) 中村 好子5

岩沢 房子10

大木 行男1

山本 和雄5

(高十八回) 齊藤 俊一10

椎名 文彦10

島田 恭子3

常世田順子10

戸嶋紀美子10

杉山 静子10

(高十九回) 崎山美枝子5

稲葉百合子5

高梨 一夫10

(高二十回) 外口 央10

(高三十四回) 野口 淑実5

(高三十五回) 川名 一夫10

(高三十七回) 北林 幸代1

(高三十八回) 宮川 深雪1

大川信一郎2

(高四十一回) 大川 優1

遠藤 正和2

仙田 昌義10

(高四十三回) 浅井 誠5

中西 亜弥3

(高四十四回) 西塚 実香5

石橋 康2

鈴木 匡10

(高四十六回) 石橋 祥光3

(高四十七回) 伊東三佳子5

清水 敏隆5

鈴木 尚10

中西 大典3

(高四十八回) 椎名 伸行1

(高四十九回) 増田 清敬10

(高五十三回) 野本(嶋田)

真知子10

鈴木 敦1

(高五十四回) 尾崎 聖子5

真田 友矩5

(高五十五回) 越川健一郎5

林 菜由子5

鈴木 悦子10

戸村 優介10

(高五十六回) 鈴木 菜生5

磯村 宜史10

菅生 匠5

鈴木 博之1

(高五十七回) 林 菜由子5

鈴木 悦子10

戸村 優介10

(高五十八回) 山本 達男

(併中二回) 高橋 榮一

(高六回) 高埜 隆

(高十一回) 畔蒜 正男

(高十二回) 齋藤 輝政

石井 伸子

横山美智子

(高十三回) 及川 光男

大友總一郎

嶋田 亮一

(高十七回) 石毛 健夫

(高二十一回) 角田 道治

(高二十五回) 鈴木 友孝

(高二十七回) 嶋田 亮一

(高二十九回) 鈴木 友孝

(高三十一回) 嶋田 亮一

(高三十三回) 鈴木 友孝

(高三十五回) 嶋田 亮一

(高三十七回) 鈴木 友孝

年会費納入者

※平成二十二年九月二十三日から二十三年三月二十八日受付まで
※名前の下の数字は納入していた
だいた年数を示します。

終身会費納入者

※平成二十三年三月三十一日から九月六日受付まで

年会費納入者

※平成二十三年三月三十一日から九月六日受付まで
※名前の下の数字は納入していた
だいた年数を示します。

- 〔高二六回〕 鎌形 一美
〔高二八回〕 加瀬志津子
〔高二八回〕 鶴見 正雄
〔高四〇回〕 宮野 哲
〔高四六回〕 石橋 祥光
〔高五〇回〕 平山 孝志
〔高五十一回〕 岩井 利成
〔高五十二回〕 松崎 菊江 5
〔高二二回〕 友松富美子 5
岸 とき 10
〔高二三回〕 佐々木信子 5
〔高二四回〕 足立美佐江 10
〔高二五回〕 及川 博 1
向後喜美子 1
永井 久代 10
〔高二八回〕 池田 操 10
〔高二九回〕 押田 明裕 1
〔高三〇回〕 山本 和弘 5
〔高三三回〕 石毛 啓 5
〔高三四回〕 齊藤由起枝 10
林 克枝 5
〔高三七回〕 小西 邦男 5
渡邊 錦一 5
〔高三八回〕 大川信一郎 1
〔高四〇回〕 渡邊由美子 5
加藤 正嘉 1
崎山 博之 2
〔高四一〕 萩田 隆一 5
遠藤 正和 1
〔高四三回〕 中西 亜弥 3
〔高四四回〕 西塚 実香 5
石橋 康 2
鈴木 匡 5
松戸 芳憲 5
〔高四七回〕 鈴木 尚 5
中西 大典 3
〔高四八回〕 飯嶋 知希 5
椎名 伸行 1
〔高四九回〕 松戸 宏樹 5
〔高五三回〕 高橋 祐太 10
鈴木 敦 1
鳴海賢太郎 5
〔高五四回〕 椎名謙一郎 3
〔高五六回〕 鈴木 博之 1
〔高五八回〕 伊藤むつみ 10
梅田ゆかり 1
三枝 千紘 1
潮来 友梨 1
鈴木 奈緒 5

全国高校総合文化祭(文化部のインターハイ)

千葉県代表油彩作品出展
3年 木内友加里
この作品を描き始めたのは、四月始めの頃です。春休みからモチーフとなる題材を探していたのですが、なかなか決まらずに、かなり焦りながらのスタートとなりました。最終的には、我が家の愛犬を描くことに決めました。描き始めた時は、犬が木陰からのつそり出てくるという不気味な雰囲気にはなかったのですが、日の光や木漏れ日を描き込んでいくうちに爽やかな感じになりました。制作で一番苦労した所は、正面を向いてこつちへ向かってくる主役の犬です。顔のバランスは、納得がいくまで何度も描き直しました。そこが、一番こだわった所でもあります。描いていて楽しかった所は、木漏れ日の表現です。暗い所から明るくなっていく所に、水色や黄色など様々な色を使ってみました。地面の葉っぱや枝は、手前の描き込みを多くし、

遠近感が出るように工夫しました。
五月下旬、追い込みの制作は自宅に持ち帰り、八月頭に無事完成させることができました。
先生や部員のみなさん、家族には大変お世話になりました。美術部活動の集大成として、とてもいい経験になりました。
顧問 伊藤 学史

八月三日から二泊三日で文化部のインターハイとも言える「全国高等学校総合文化祭・福島大会」に、美術部員十一名と参加してきた。本校から出展した作品は、三年生木内有加里さんの油彩画、一・二年生十一名での立体共同作品。震災の影響を受けながらも福島県立美術館に集まった全国選り抜きの作品は四百十点。会場に入ると、なんと本校の立体作品が先頭に飾られていた。二ヶ月半ぶりの再会に、思わず生徒とにやけ顔。(講評会でも取り上げてもらい達成感倍増。)この夏、最

高の作品を肌で感じ、最高の経験をしてきた美術部員。参加させて頂いた恩返しは、日頃の活動を地道に頑張ることに尽きると思う。

編集後記

「さふさ」44号をお届けします。
「おめでとうございます」の欄、越川芳雄さん(中12)の瑞宝双光章は高齢者叙勲として、満88歳になられた翌月の11月に叙勲されました。
また、編集委員の米本雅男さん(高10)が、8月、全日本教職員バトミントン選手権大会の70歳以上男子複の部で優勝しました。

《第44号編集委員》

- 馬淵 英夫 (高10)
品村 晃祥 (中14)
平山 武彦 (高7)
綿貫ひろ子 (高8)
米本 雅男 (高10)
富澤 汎子 (高11)
川口 克己 (高15)
岩瀬 道治
岩井 和徳
(事務局/高24)
(会長/高19)